

# 令和2年度研究推進計画

学校名 東広島市立川上小学校

学校長名 村田真司 印

## 1 研究主題、研究内容・方法等について

### ① 研究主題

わかる・できる・やってみようと主体的に学び合う児童の育成  
～ユニバーサルデザインの授業研究～

### ② 主題設定の理由

本校の学校目標である「自ら学び 共に学び 心豊かでたくましい子」を実現するために今年度は次の7つの資質・能力（知識・情報，思考力，判断力，表現力，主体性，共感力，自らへの自信）を設定しどの児童にも確かな学力と豊かな心を育成していく。

昨年度は初めてユニバーサルデザインの視点を取り入れ，算数科を中心にして児童が主体的に学び合うことができるように研究を進めた。研究を進める中で，ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりが，児童に学習意欲や達成感を持たせることにつながるということが分かった。しかし，単元末テストや学力テストにおいて，課題がみられた。単元末テストを観点別にみると，「考え方」の観点で特に課題が大きかった。また，学力調査では，国語科に特に課題がみられた。これらのことから，本校の児童には，情報を正確に読み取る力が必要であると考えた。

そこで今年度は引き続きユニバーサルデザインの視点を取り入れながら，国語科の「読むこと」の領域を中心にして，児童が主体的に授業に参加し，学習内容の理解を深め，「わかる・できる」といった喜びを得ることでさらなる学習の理解や活用ができるようにしていきたいと研究を進めることとした。

- ① 焦点化（単元でつけたい力をしぼる，授業でやりたいことをしぼる）
- ② 視覚化（ICTの活用，構造化された板書）
- ③ 共有化（友達とかかわりながら学びを深める）

この3つの視点で授業の見直しを図り，国語科の授業にすべての児童が主体的に参加し，力をつけられるように研究の推進を図る。今年度は特に「共有化」に重点を置き，「一部の児童だけで進む授業」からの脱却を図る。そして，一人の考えのよさを全員で分かち伝え合い，深い学びの実現を目指す。

授業のユニバーサルデザインを支えるために生徒指導の三機能を生かし，クラスの児童同士がつながること，自己肯定感を高めることで学級経営を充実させること，児童への刺激量を軽減して落ち着いて学習に集中できるように教育環境を整備することを徹底していくこともあわせて研究していく。

このような研究によって児童の学力向上と教師の指導技術の向上を目指していきたい。

### ② 研究の仮説

国語科の学習を通して，ユニバーサルデザインの授業研究という視点で授業の改善を行うことでどの児童も主体的に学習に参加し，学習の理解を深め活用を図ることができる。

### ③ 研究内容

- 模擬授業の実施により，ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善を行う。
- 国語科を中心に全員が授業提案をする
- 授業観察を互いに行い，客観的評価に分析，改善を図る

#### ④ 検証の指標

- 単元末テストで学級平均 80 点以上の児童の数が低学年 90%以上、中学年 85%以上、高学年 80%以上になるようにする。
- 国語科の学習についての児童生活アンケートでの肯定的評価が 80%以上にする。
- 授業研究において授業評価の平均を 4 段階中 3.2 段階以上にする。

## 2 検証計画

- ① 単元末テスト（読む）〔授業研究対象単元の単元末に実施〕
- ② 国語科の学習についての児童生活アンケートの調査〔4月 7月 11月年間 3回実施〕
- ③ 各授業研究の際、観察した教職員による評価

## 3 校内研修計画

- 指導主事を講師として招聘し研修を進める。
- 研修部会（国語部）を組織し、全職員が積極的に研究にかかわる。
- 提案授業による実践的な研究を進める。（1人1提案以上とする。）
- 提案授業の2週間前までには指導案検討を行い、授業研究の視点を明らかにしておく。
- 全体研修については模擬授業を行い、全教職員で協議し改善を図る。
- 単元ごとにどのように授業をしていくかを話し合う授業改善のための学年部会を月3～4回程度設ける。

4月	上旬	国語科の授業づくりについての理論研修 国語科の学習についての児童生活アンケートの実施・実態把握・分析
5月	上旬	ユニバーサルデザイン理論研修
6月	中旬	校内模擬授業
	下旬	校内模擬授業
7月	上旬	校内授業研究 国語科の学習についての児童生活アンケートの実施・実態把握・分析
8月	下旬	校内模擬授業
9月	上旬	校内授業研究 校内模擬授業
10月	上旬	校内授業研究
	下旬	校内模擬授業
11月	中旬	校内授業研究
	下旬	校内授業研究 国語科の学習についての児童生活アンケートの実施・実態把握・分析
12月	上旬	授業実践の成果と課題を分析・まとめ 研究紀要作成
1月	上旬	標準学力調査
2月		本年度のまとめ及び来年度の研究計画